

### 3 新幹線鉄道騒音調査

資料3

## 1. 調査件名

新幹線鉄道騒音調査業務

## 2. 調査目的

本業務は、滝沢村内各種環境調査業務の一環として、滝沢村が指定した東北新幹線沿線の2地点において現地騒音調査を実施することにより、新幹線騒音の実態を総括的に把握することを目的とした。

## 3. 調査地点

調査は、葉の木沢山の第一種住居地域の1地点及び滝沢トンネル北口付近の無指定地域1地点での合計2地点で実施した。表-1に調査地点を示す。また、調査地点位置図を図-1～図-2に示す。

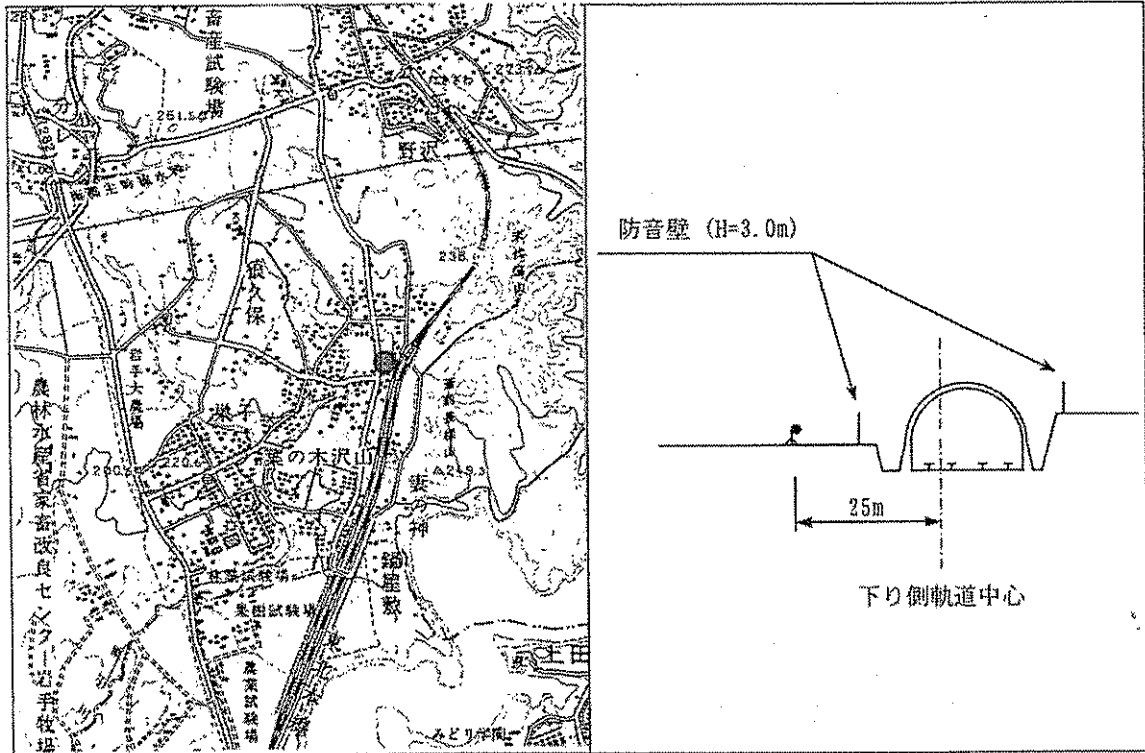
表-1 調査地点

| 地点番号 | 調査地点             | 東京起点からの距離 | 下り側軌道中心からの距離 |
|------|------------------|-----------|--------------|
| ①    | 滝沢村字葉の木沢山 554-23 | 506k467m  | 25m          |
| ②    | 滝沢村滝沢字大崎地内       | 509k050m  | 25m          |

## 4. 調査年月日

調査は平成16年6月16日(水)に実施した。

測定状況等写真（滝沢村字葉の木沢山 554-23）



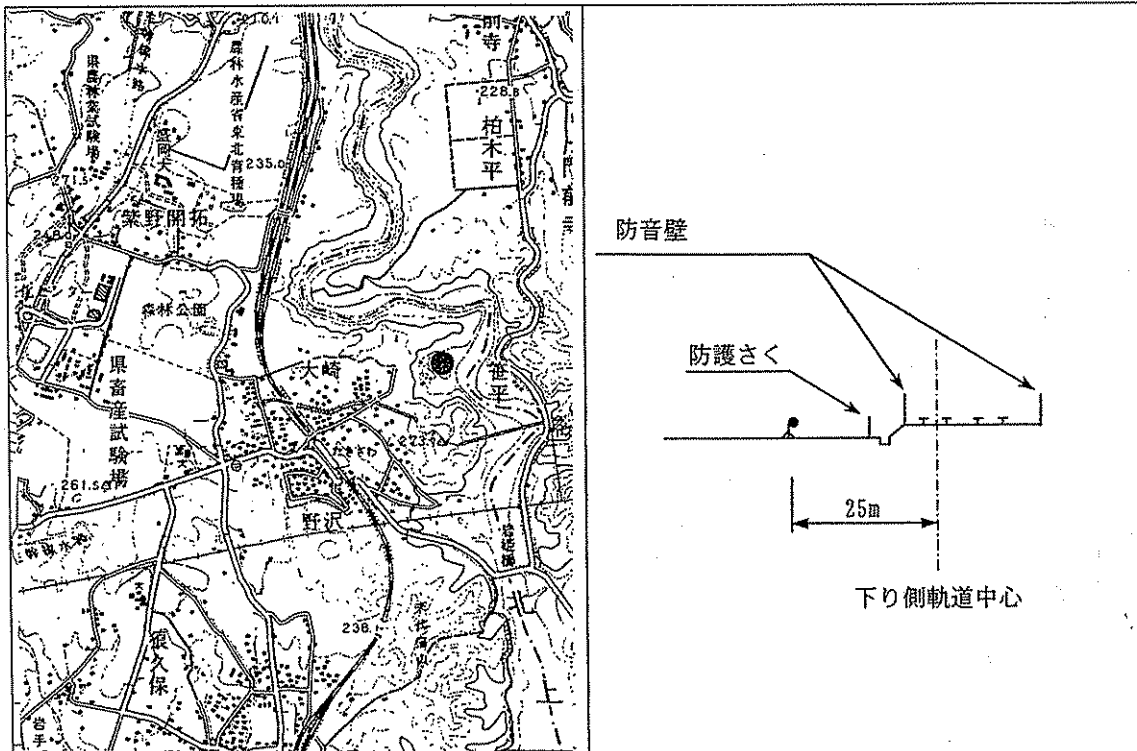
調査地点

断面図



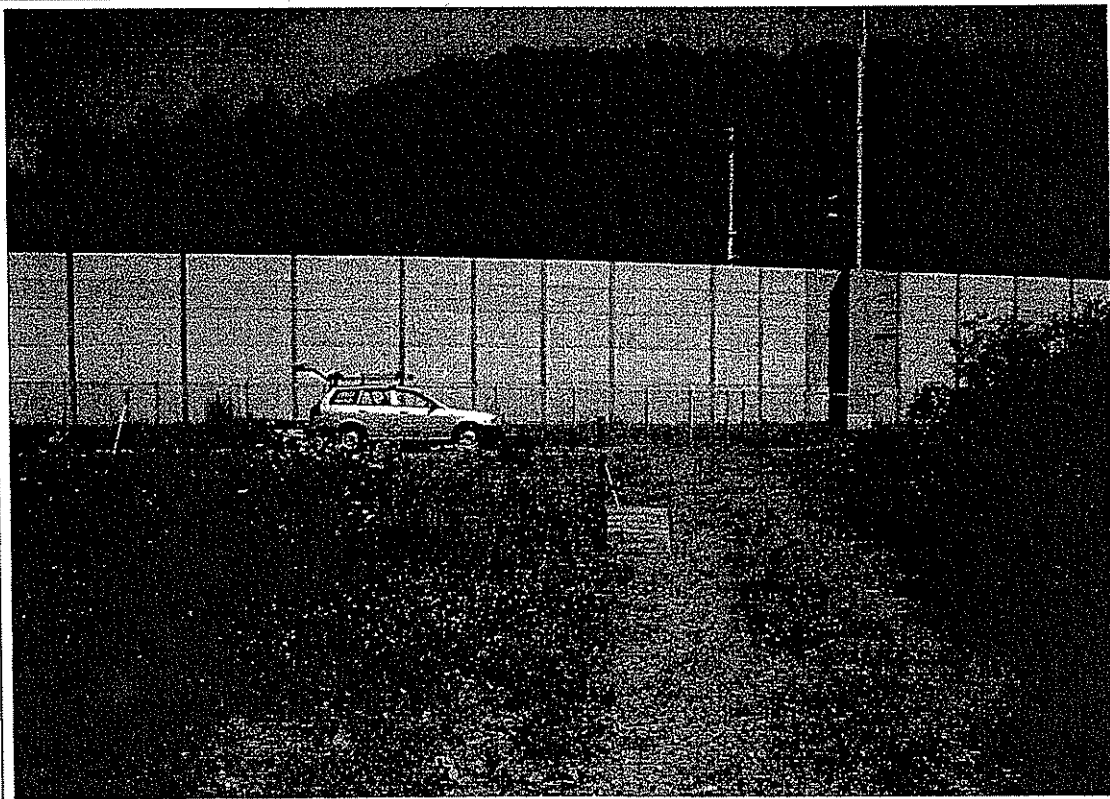
調査地点遠景

測定状況等写真（滝沢村滝沢字大崎地内）



調査地点

断面図



調査地点遠景

## 基準値との比較

今回行った騒音調査結果を、新幹線鉄道騒音環境基準（昭和 50 年 7 月 29 日環境庁告示第 46 号）と比較し表-2に示す。

今回実施した調査地点は、地点①が第一種住居地域、地点②が用途地域の定めのない地域であって住居が存在する地域である。このため地点①についてはⅠ類型の基準値を、地点②はⅡ類型の基準が適用される。

巻末資料に新幹線鉄道騒音環境基準（昭和 50 年 7 月 29 日環境庁告示第 46 号）を示す。

表-2 新幹線鉄道騒音環境基準との比較

| 地点番号 | 調査地点             | 地域の類型 | 用途地域    | 騒音レベル | 基準値     |
|------|------------------|-------|---------|-------|---------|
| ①    | 滝沢村字葉の木沢山 554-22 | Ⅰ     | 第一種住居地域 | 70dB  | 70dB 以下 |
| ②    | 滝沢村滝沢字大崎地内       | Ⅱ     | 無指定     | 75dB  | 75dB 以下 |

## まとめ

調査結果は上記のとおり、基準値を満足する結果であった。しかし、どちらの地点も基準値と同値であり、最大値を見た場合①地点で 71.2dB、②地点で 75.3dB と基準値を超えるレベルの列車がみられる（走行列車個別の結果は巻末の資料編参照）。

騒音レベルの上位半数を占める列車のほとんどは、測定地点側を走行する下りであり、今回の調査結果から列車の走行状況（速度・編成種別等）によっては、環境基準の超過が懸念される。実際、過年度測定資料によれば、①地点において平成 15 年度調査で環境基準を 1dB 超過している。

新幹線は、高速性という社会的ニーズに応えながらも、騒音などの苦情が途絶えないのも実情である。JR では、騒音の防止又は軽減を図る上で最も基本的な施策である発生源対策として、レール削正、防音壁、低騒音車両等の技術的研究・開発に努めている。そこで、新幹線鉄道沿線側では、日常生活環境を保持するためにも、今後の騒音の監視を行っていくことが必要であると考えられる。